

そらこめ通信

No.56 2015年3月号

このたびは弊社の米をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。日頃よりご愛顧頂いております皆様にはこの場を借りて厚くお礼を申し上げます。

弊社の農場がある沼田町ですが、今年のはかつて経験したことがないほど雪が少ない冬になりました。沼田町のホームページによると、2月21日現在の降雪量の累計(今シーズンにおける日々の降雪量を累計した数字)は800センチとのこと。ちなみに昨年同日における降雪量が988センチ、一昨年は1,080センチだったようで、例年に比べて雪が少ないといわれた昨年よりさらに188センチ、一昨年と比較すると280センチも降雪が少ない状況です。また、積雪深(実測した残雪の深さ～沼田町は市街地で調査しています)は、2月21日現在で125センチとのこと。昨年同日が168センチ、一昨年は170センチだったようで、これまた一昨年に比べて45センチも残雪が少ない状況になっております。

確かに、1月中旬からひと月ほどまとまった雪が降っていません。グループには冬の間除雪を請け負う会社があり、担当者からは嘆き節も聞こえています。既に2月が終わり、ハウスの組み立て作業が始まっているため、農家にとって雪が少ないことはありがたい話ではあります。でも、なんだか変。冬の気温が妙に高いことが気になるのです。急きょタイ米を輸入した年について、記憶されている方も多いと思いますが、大冷害に見舞われたその平成5年(1993年)の気象データを詳細に調べると、興味深い事実が判りました。その年の5月～8月の月別平均気温が他の年の同月に比べて明らかに下回っていて、結果として積算温度が足りずに大冷害をもたらしたのは前述のとおり。でも、その年の1月～4月の平均気温は実は他の年に比べてかなり高かったのです。今、一番心配なのは冷夏の再来。そんな年にならぬよう祈るばかりです。



十勝三菱さんの初売りで当選された方です



精米作業に打ち込む拓哉さん(1月23日)



ハウスの除雪をする社長の奥さん(1月24日)



トラクターの後ろに付けたロータリーでハウス周辺の雪を除雪する木村社長(1月24日)



もみ殻を使ったくん炭作りのようす



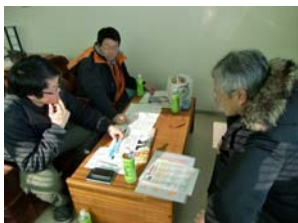
くん炭製造器から出来上がったくん炭をかきだす木村社長-写真中、右 (1月30日)



保管してあるもみ殻はくん炭に加工することで、育苗の際の上質な土壌改良材になり、健康な苗の生育の手助けになります



今年から使い始めた新しいコメの袋(写真は10%のゆめぴりか)です。すべての品種のポリ袋に木村社長のイラストが印刷してあります。今年はこのイラスト入りコメ袋で勝負します(2月6日撮影)



今年の営農計画についての打ち合わせ



「ふっくりんこ」が特Aに(2月20日)



早くもハウス建てが始まりました(2月20日)



今年度のイエスクリーンの栽培基準一覧

今年もJAさんから「イエスクリーン」についての栽培基準一覧が手元に届きました。北海道は本州に比べて比較的冷涼な土地柄から病害虫の発生が少ないのが特徴です。そのため使う薬剤については元々本州のそれより少ない量で済むのですが、「イエスクリーン」を合言葉にさらに厳しい基準を設けて生産しています。

安全で美味しいお米の生産に精一杯努めますので、引き続きご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

インターネットで美味しいお米!

(株)空知こめ工房 ホームページ
<http://www.sorachi-kome.jp/>
 ブログ「生産日誌」更新中です